

那古野一丁目地区・ 景観まちニュース



奈良県河合町から視察を受け入れ

河合町は、奈良県西部に位置する人口約16,000人の町で、約60もの古墳があるなど長い歴史があり、大阪市内に1時間でアクセスできる便利さもあることから旧集落と新興住宅地の両方を有しています。昨年12月1日に、河合町の総代・自治会長会（いわゆる自治会連合会）からの依頼で、視察団10数名を受け入れる機会がありました。地元からは那古野学区区政協力委員会の水川委員長、四間道・那古野界隈まちづくり協議会の福谷代表、当推進委員会の関谷会長を始め那古野一丁目の各町内会長が参加し、名古屋市住宅

都市局からもオブザーバーとして同席いただきました。まず那古野コミュニティセンターで我々の活動の説明と質疑応答を行いました。自治会の加入者や子どもが減っているのは河合町とも共通の課題であることや、お互いの地域の特徴なども語り合いました。その後、円頓寺本町商店街、円頓寺商店街や四間道界隈をご案内しました。2時間程の短い時間でしたが、河合町のみなさんと和気あいあいとおしゃべりしながら、開発が進む名古屋駅のすぐ近くにレトロな町並みを有するこの地域をご紹介します。き、有意義なひと時となりました。

河合町ってどんなところ？
河合町は約8回と小さい町ですが、大阪市内へのアクセスは1時間以内、関西国際空港まで1時間50分と交通の便に恵まれています。法隆寺は飛鳥、飛鳥や平城宮跡など奈良県の歴史遺産のほとんども車で45分以内、利便性と共に歴史の教科書の上を歩くような体験が可能です。

奈良県河合町
河合町 広瀬広徳
TEL 0745-57-0200

ハイブリッドな町
河合町には古くからの歴史があり、さらには最新の体験型インテリゲンシーセンターもあり、伝統と最新の両方の特徴を備えている一方、歴史遺産や古くからの街並みも残っています。旧集落の中心には、新築住宅も増え、まさにハイブリッドな町です。

伝統の祭 砂かけ祭
毎年2月11日に、河合町で行われる。江戸時代、雨に降ると土が舞い上がり、農作業が困難なことから、雨に見立てた砂をかけ合い五穀豊穡を祈願する大和の奇祭のひとつとされているそうです。

安全なまち
子育てにも、災害にも「安全なまち」を目指して、河合町では、防災意識を高め、防災訓練を実施しています。また、河合町では、防災意識を高め、防災訓練を実施しています。

馬見丘陵公園
馬見丘陵公園は、河合町の東部に位置し、約100ヘクタールの敷地に、自然豊かな環境の中で、ウォーキングやサイクリング、釣りなどのレクリエーションを楽しむことができます。また、公園内には、自然観察の場や、子供向けの遊具も備えています。

国指定史跡も！
河合町には、国指定史跡の「那古野古墳群」があります。この古墳群は、古墳時代中期から後期のものがあり、その規模や構造から、当時の社会の様子を知ることができます。

奈良県河合町の案内チラシ (河合町役場よりご提供)

河合町の祭「砂かけ祭」
日本書紀にも記載されている廣瀬神社で毎年2月11日に開催される。雨に見立てた砂をかけ合い五穀豊穡を祈願する大和の奇祭のひとつとされているそうです。
(参考：河合町役場のホームページ)



街案内の様子（左：円頓寺本町商店街 右：子守地藏尊前）

那古野コミュニティセンター
で意見交換

四間道秋祭りで景観協定をPR

11月8、9日

秋の恒例行事となった四間道秋祭りが昨年11月8、9日の土日に開催されました。推進委員会では景観協定のPRを目的として秋祭りに参加し、秋祭りで行われるスタンプラリーのポイントを子守地蔵尊の路地に設置しました。2日目の日曜日はあいにくの雨模様で来訪者が少ない状況でしたが、1日目の土曜日は天候に恵まれて多くの来訪者がポイントを訪れました。ここでは主に1日目の様子を紹介します。

ポイントでは、テーブルを設置して景観まちづくりニュースを配置し、テーブルの横に景観協定を紹介するパネルを設置し、スタンプを押しに訪れた人達にニュースを配ったり、パネルを使ってこの街の歴史の移り変わりや景観の特徴を紹介しました。路地には8月の地蔵盆の時に製作した行灯を再び路地に並べたり、路地の入口に子守地蔵尊の提灯や景観協定の旗を設置して路地周辺の景観を演出

しました。この路地を人力車が通ったり、四間道から屋根神様の前に山車が入ってきたりして、その様子をスマートフォンで撮影する人達も見られました。

他のスポットでは、四間道が昨年と同じく歩行者天国となり、歌や演奏のパフォーマンスが行われるなど人々が路上で足を止めて聞き入っていました。四間道沿いの駐車場には飴菓子の工業協同組合のブースが設置され、組飴の実演を親子連れのみなさんが見入っていたり、飴すくいに参加してたくさんのお饴を抱えている人達も見られました。日本酒やワインのテイクアウトがあったり、オーナメント作りなどの体験プログラムも行わたりし、日が暮れるまで多くの人で賑わっていました。

スタンプラリーに参加した人に聞くと、この地域に初めて来た人や景観協定があることを初めて知った人も多く、PRが大いにできた2日間となりました。



8月の地蔵盆に続いて四間道秋祭りでも子守地蔵尊の提灯と行灯を設置。あわせて景観協定の旗も設置してPRした。



景観協定をPRするパネル



子守地蔵尊のある路地にスタンプラリーのスポットを設置



夕方に映える路地の行灯



屋根神様の前を山車が通った!



オーナメント作りの様子



組飴実演の様子



四間道のにぎわいの様子



四間道のにぎわいの様子

近況報告 住民による手作りの運営

那古野一丁目地区の景観協定は、令和3年6月に名古屋市と締結し、協定の期間は10年となっています。景観協定を運営する当推進委員会では、これまでの5年間、名古屋市の市民団体助成の支援（1年あたり最大50万円、5年まで）を受けるとともに、5町内会からも毎年少しずつ活動費を出して運営してきました。活動経費は、ニュースの発行、ホームページの運営、会議をする時の会場代、景観協定を示すプレートやシールの製作、行灯の製作などに活用しています。行灯に絵や文字を書いた紙を貼るのは手作業で、ニュースの配布、8月の地蔵盆と11月の四間道秋祭り当日の設営・撤去なども各町内会長をはじめこの地域の住民が行っています。

名古屋市の市民活動団体助成の活用は令和7年度で終了します。令和8年4月からは、協賛金や会費、町内会からの活動費などで賄うことを検討したり、地蔵盆や秋祭りに参加して景観協定のPRを

継続し、ニュースの発行も継続するなど住民による景観や住環境を守り育てていく活動を今後も続けていきます。

推進委員会による景観まちづくりの活動にご興味がある方は、ぜひお近くの町内会長にお声がけください。たくさん推進委員会のホームページよりお問い合わせ下さい。みなさんのご参加をお待ちしています！

◆ 最近の推進委員会の活動 ◆

第28回 令和7年11月12日

秋祭りの振り返り、
今年度の市民団体助成の執行について、
来年度以降の活動について など

第29回 令和8年1月21日

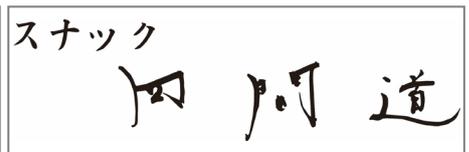
今年度の市民団体助成の執行について、
来年度以降の活動について など



▼スマートフォンでのアクセスはこちらから



当推進委員会のホームページ (URL : <https://nago1.com/>)



景観まちづくり推進委員会の活動を応援してくださる店舗・企業さんを募集中です！！